川柳天守閣

2025年1月号

第２０回例会　２０２４年１２月１５日（日）　投句締切分

お題　「予感」

島根写太　選

今朝の夢白馬の王子来る予感　松島きよみ
内緒でね知らせてくれる虫を飼う　佐野正邦
スマホ鳴る嫌な予感の深夜二時　山野寿之
きっとまた会えるとずっと思ってる　信子
沸騰化地球滅亡する予感　井澤壽峰
封筒は恋の予感の花切手　山野寿之
予感的中傘を忘れて濡れねずみ　林ともこ
来期大谷もっと活躍する予感　松谷由夏
核脅威まだまだ続く気配する　武智三成
失恋の兆しだろうか高い波　直子
大空に車ラッシュの未来都市　井澤壽峰
春の風彼来る予感薄化粧　美代
皿が割れふっと別れの予感する　林ともこ

（五客）

佳５　皿が割れふっと別れの予感する　林ともこ
佳４　言葉無く視線逸らした別れ際　久世高鷲
佳３　いいことがある予感して遠回り　浜脇蓬生
佳２　戦争の予感ムンクの叫び声　平川柳
佳１　２軒目に移動したなと妻予感　波部珀兎

（三才）

人　朝の虹きっと午後にはいい出会い　**松谷由夏**
地　防潮堤跨ぐ大津波の予感　**蔵内歳重**
天　今度こそ恋の句いのダイエット　**秋田あかり**
軸　なんとなく気が合いそうな恋の風　島根写太

（選評）

人の句

句が前向きで明るいですね、人生いろいろありますが嫌なことはすっと忘れて元気に行きましょうとのメッセージが含まれていてリズムも　良くて好感を持てました。
他の句も優秀作が多く選句は楽しさと苦しさでした。
ありがとうございました。

地の句

「川柳では「人」を謳い上げることも時事を語り継ぐことも大切と考えます。
この句を会場で披講すると　防潮堤跨ぐ―大津波の予感　となりまして九音＋九音の「句またがり」になります、五七五の句が主流ですが新鮮味があると感じました。

天の句

川柳は「人」中でも男と女、を川柳感の原点としている私にとって「恋」の句が多く寄せられ嬉しいです。天の句は、四十代前後の女性の　感触でしょうか、失恋なんてへっちゃらよ・でも・・と言っているような、平素な言葉の中に深みを感じました。

全体の講評

川柳は「人」中でも男と女、と思っているので課題は恋の予感をイメージしました。もちろん恋以外も優れた句が多い中、選考は楽しくもあり苦しくもありといった感じになりました。
昨今の川柳を見ますと「恋」をモチーフにした句が少ないですが皆様から寄せられた「恋」に新鮮味を感じました。
ありがとうございました。

お題　「帽子」

真鍋心平太　代選

物騒な世だヘルメット被り寝る　岡野とら丸
芸術家気取る無職のベレー帽　島根写太
貴族なら烏帽子被って寝る姿　勘兵衛
子や孫に被せたくない鉄兜　松島きよみ
綿帽子６人かぶる村の墓地　加山勝久
公園のどんぐり囲む園児帽　秋田あかり
新しいわたしになろうベレー帽　直子
目的外目出し帽の使い道　三枝なな
嬉しくて帽子を投げたことがある　信子
棺に入れる帽子馴染んだ香りする　浜脇蓬生
コック帽の高さと地位は比例する　波部珀兎
マジシャンの帽子の中にある無限　久世高鷲

（五客）

佳５　お出掛けにお洒落な帽子ウイッグで　堀内きみ子
佳４　胸打たれたあのひと言に脱帽す　久世高鷲
佳３　角帽が消えて久しい京の街　加山勝久
佳２　帽子屋の鏡に魔法かけられる　林ともこ
佳１　爺さんも帽子押さえて世を渡る　武智三成

（三才）

人　情報のキャップに穴があいている　岡野とら丸
地　近衛兵を大きく見せる黒帽子　蔵内歳重
天　リスペクトするのはハンフリー・ボガートの帽子　小林満寿夫
軸　私だけストローハットだった夏　真鍋心平太

（選評）

人の句

情報の「キャップ」という発想がユニークで
ウェブサイトの例会では採用しない訳には行きませんね。
大変結構だと思いました。

地の句

英国バッキンガム宮殿の近衛兵の帽子を思い出させる句。この帽子、実はベアスキン（熊の皮）で出来ていて、動物愛護の観点から評判はよくないとか。時事吟としてもピタリの句になりました。

天の句

世界中の紳士達が、こぞって愛用するクラシックな中折れ帽といえば、世界最高峰と讃えられるイタリアの名門老舗、ボルサリーノ。
「帽子」のお題でボギーの帽子をリスペクトするとは
なんともお洒落で天に頂いてしまった。

お題　「雑詠」

真鍋心平太　選

新聞の核なき地球まだ遠い　武智三成
向かい風吹くだけ吹けと仁王立ち　松島きよみ
鰯雲ぼんやり見ればインベーダ　美代
冬将軍秋を蓋して小雪舞う　堀内きみ子
つい笑ってしまうファミレスのロボット　信子
煙突の慟哭けむりになるあなた　平川柳
物価高に歯止めをかけている牛丼　小林満寿夫
幸せを演じ疲れたシクラメン　直子
5年日記代わり映えなく3年経ち　加山勝久
それなりに恋だったのか白椿　直子
リハビリの長い1年待つ花見　堀内きみ子
傘の雫切れないままに友が逝く　林ともこ
年末の買出し全て孫達へ　勘兵衛
赤道が太りだしたか沸騰化　島根写太
アフリカのタコが浸かっているおでん　春田敏晴

（五客）

佳5　戦争の余波たずさえるデイの　人　武智三成
佳4　しなやかな呼吸わたしを生きている　秋田あかり
佳3　躓きの数少年が伸びるバネ　山野寿之
佳2　幸せの半減する朝のニュース　信子
佳1　大泣きをしないと次へ進めない　岡野とら丸

（三才）

人　もう一回踏ん張りたいと叩く骨　松谷由夏
地　明日定年始発電車乗り納め　久世高鷲
天　夫逝って電球さえも替えられぬ　林ともこ
軸　戒厳令を俯瞰していた渡り鳥　真鍋心平太

（選評）

人の句

老いてからの病は好くなるということはなく、
くい止めるのが精いっぱいというケースがほとんど。
だからこそもう一度健康になりたいとリハビリに精を出す。
皆さんのその気持ちを表現された秀句。

地の句

明日定年で最後の電車に乗るというのだが、
なんと始発であるという。長い間毎朝始発に乗って
一家を支えて来た人生を思うと頭が下がる。
「始発電車」の使い方が見事！

天の句

連れ合いを亡くした寂しさを「電球さえも替えられぬ」
という具体的な事実で突きつけられ言葉が出て来ない。
百万言の美辞麗句よりこういう句に胸を衝かれる

お題　「久しい」

互　選

1点

性格美人ブランクを経て魅力増す　波部珀兎
マスク取り顔が久しい生と生　山野寿之
故郷の香り久しく祖母の文　久世高鷲
大トロにお久しぶりとご挨拶　春田敏晴
手術してすぐさま歩けの久しぶり　小林満寿夫
母さんに久々電話言い訳し　美代
久々の大根足が太くなり　真鍋心平太
久々の男手料理焦がす鍋　久世高鷲
道の駅訛り言葉に祖母の声　三枝なな
ポケベルの所持を拒んだ昔在り　蔵内歳重
親と子の久しく本音心晴れ　東尾由子
管外れ匙久しぶり口に粥　松島きよみ
免許なし久しく歩き大発見　勘兵衛
懐かしい名同級生から"いいね"来る　波部珀兎
戦争に久しく勝つと命名され　加山勝久
久しぶり蟹の御膳に緩む頬　岡野とら丸
おごれる者と続く言葉を憶えた日　三枝なな
病み上がり友と久しく旅の空　堀内きみ子
永久の時間の中にいる二人　平川柳
山茶花よ　しばらくぶりの君の声　直子
同窓会コロナ以来で老いた顔　青空

2点

同級会はなたれ小僧はや卒寿　加山勝久
振り向くと懐かしい顔初時雨　直子

3点

戻してあげたい巌の半世紀　島根写太
村祭り消えて久しい里帰り　林ともこ
コロナ明け久々の紅しゃんとする　美代
福助に久方ぶりにお辞儀され　春田敏晴
村人が去って久しい鄙の里　井澤壽峰
苦も楽も有ってやっとのダイヤ婚　井澤壽峰
昼歩く北の新地の懐かしさ　佐野正邦
定年後遠く久しい北新地　松谷由夏
久しぶり一番星の母に逢う　平川柳

4点

退院後笑って会えた久し振り　秋田あかり
久し振り笑顔のハグと素手と素手　山野寿之
竹馬の友浦島太郎なる白髪　堀内きみ子
悠久の彼方からまたラブレター　真鍋心平太

5点

五年経ち亡母の紬の袖に風　松島きよみ
会えずとも久しくはないSNS　浜脇蓬生

6点

草の根のノーモア繋ぎ平和賞　島根写太

7点

12点

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

お題　「星」短句

互選

1点

私のスターやっぱ裕ちゃん　松島きよみ
忙しい日々癒やす星空　信子
恋しい人と星になる夢　東尾由子
空が凹んだ　星になる君　平川柳
一番星に明日の風抱く　堀内きみ子
星の数ほどある我が野心　美代
遠距離恋の星のまばたき　堀内きみ子
観客沸かせ相星決戦　波部珀兎
漆黒の空北斗七星　井澤壽峰
夜空に一つあふれる思い　真鍋心平太
星それぞれに違う輝き　岡野とら丸
土ぬれていて星冴えわたる　三枝なな
宇宙は人の希望の轍　蔵内歳重
昭和スターがまた１人逝く　波部珀兎
きらきら星に我が身占う　東尾由子
星降る夜に願いを託す　久世高鷲
夜空が狭い冬の星座よ　浜脇蓬生
どこにあるのか亡き人の星　浜脇蓬生
星占いで一喜一憂　松谷由夏
わたしの中の星が瞬く　直子
シャイな明星今も道標　武智三成
ろくでなしです宵の明星　小林満寿夫

2点

3点

降り注ぐ星山小屋の夜　松谷由夏
諦めたのに星降ってくる　直子
明けの明星願う平和を　松島きよみ
あの星にならなってもいいな　秋田あかり
悩みの答え星空にある　岡野とら丸
星のきらめき心の鼓動　蔵内歳重
4点
銭湯帰りふとオリオン座　林ともこ
夜空輝く九チャンの笑み　久世高鷲
尽くし尽くした夫天の星　山野寿之
5点
流れ星未だ願い半分　青空
7点
告白を待つ夏のさそり座　秋田あかり
10点
動揺の目は図星の本音　山野寿之
11点
億光年を君とまたたく　真鍋心平太
満天の星ちっぽけな僕　林ともこ

今月の投句者（２８名　敬称略　**太字**のかたは初参加です。）

井澤壽峰　加山勝久　勘兵衛　春田敏晴　松島きよみ
山野寿之　岩原一角　信子　武智三成　小林満寿夫
平　川柳　ルイ　三枝なな　青空　林ともこ
秋田あかり　美代　直子　松谷由夏　岡野とら丸
久世高鷲　波部珀兎　浜脇蓬生　島根写太　真鍋心平太
堀内きみ子　佐野正邦　東尾由子

皆様ご参加、ご協力ありがとうございます。

川柳天守閣　連載 評論「現代川柳の詩学」を考える ⑫
―川柳の技法（7）比喩・換喩・提喩―
―現代川柳の換喩と提喩をめぐって―

十八世川柳宗家 閑成庵川柳　平　川柳（東京川柳会主宰）

次に「換喩（かんゆ）」と「提喩（ていゆ）」をご紹介したいと思います

「換喩」はある事物をあらわすために、その事物の属性や、それに密接な関係のある別のものを用いて表現する比喩法です。

例えば、「白髪」（属性）⬇「老人」（主体）

「舞台」（属性）⬇「劇場」（全体）

この「換喩」は英語では「メトニミー」（metonymy）といいます。この英語の語源は「名前の変換」を意味する古代のギリシア語に由来しています。

また「提喩」はある事物について、その一部にあたる具象的な語で、抽象的な全体を、または全体をさす語で、個別をあらわす比喩法です。

例えば、「パン」（一部）⬇「食物」（全体）

「小町」（一部）⬇「美人」（全体）

「花」（全体）⬇「桜」（一部）

この「提喩」は英語では「シネクドキ」（synecdoche）といいます。この英語の語源は「共に」（syn）という接頭辞と語根の「理解」（ecdoche）から成り立っています。この語は「同時理解」を意味する古代ギリシア語に由来しています。

久保田元紀は川柳論集『川柳よ何処へゆく』の中でこの「換喩」（メトニミー）と「提喩」（シネクドキ）についてとてもわかりやすい例をあげながら、この2つ比喩法を「メタファ」と比較しながら、次のように解説しています。

「例えば、『たこ焼き』はタコの姿焼きを意味するのではなく、蛸の足の一部分が入っているだけのものであり、その一部分がたこ焼きの全体をイメージする。従ってたこ焼きの中に蛸の足が入っていなければ、文句をつけられるが、『たい焼き』に鯛が入っていないからと言ってクレームをつけることはできない。此の『たこ焼き』が換喩（メトニミー）であり、『たい焼き』はメタファである。

一方、シネクドは意味世界（頭の中で概念として捉えている）に於ける包含関係に基く意味変化を指す『類と種』の関係を意味する。

例えば、『親子丼』とは昔裁判問題にもなった『豆と豆腐』を入れたものではなく、『鶏と玉子』をまぶせた御飯を言い、我々は頭の中で（その子＝にわとりの肉とその卵）の概念で親子丼が食べたくなるのである。

『人魚姫』はシネクドキであるが、『白雪姫』はメタファということになり、『月見うどん』はメタファで、『きつねうどん』はメトニミーと言えるだろう。

『焼き鳥』もスズメの時代もあったが、現在は鶏を意味するシネクドキである。これがハトやカラスであったりすると問題になる。

『両手に花』の花はメタファであるが、『花見』の花は桜のことで、此の場合の花は桜に代表されるシネクドキである。

俳句の季語は現代川柳にとっても大切な理由は、俳句はシネクドキの立場で季語を取り入れるのに対して現代川柳はメタファとして活用出来ることにある三角形の頂点に位置を取るメタファは視　聴　臭味　触の五覚を持った心のアンテナであって内にある意味世界（シネクドキ）と外にある現実世界（メトニミー）の橋渡しが出来る重要な立場にあることを認識しなければならない。

英語と日本語にも共通のメタファがある。それはサニーサイドアップ＝目玉焼きである。此の目玉が鶏か人間の目玉そのものであったら、これはもうスピルバーグの世界になる。此の場合の目玉はメタファでなければならない。同じくサニーサイドアップも太陽ではなく、太陽の形になった玉子焼きでなければならない。

現代川柳を目指す我々は二つの引き出しを頭に持って言葉を見つめる必要がある。一つは直喩、風喩（寓喩）、隠喩の類の文彩の世界と、もうひとつは換喩、提喩、隠喩の喩の三角形である。何れにしてもメタファは表現の主軸になることを念願に置かなければならない。」（久保田元紀「続　メタファ」よりの引用）

この著書を１９９９年に直接、著者から頂いた。二人でメタファを論じた日々が懐かしく思い出される。

「ツァラスストラ」

真鍋心平太

ニーチェの「ツァラスストラかく語りき」を読んだのはいつだったか。数ある名言の中で覚えているのは**「神がもし居ると信じるなら何故あなた自身が神になろうとしないのか」**という言葉だけである。

人間は獣から神への道のりの間に存在していて神に向かって歩みき続けている。それが人が生きる目的であり、価値であるという教えだと解釈し、以後時おり思い出しては生きるよすがとしている。

最近「梨泰院（イテウォン）クラス」という韓流ドラマの中で久々にこの「ツァラスストラかく語りき」に出くわした。ドラマの終盤で主人公が生死の境を彷徨い復讐のための人生を回想しながら生還するシーンで、ツァラスストラの次の言葉が挿入される。

「何度でもいいむごい人生よもう一度」

これはドラマ向けに意訳して本来は

「これが人生だったのか。ではもう一度」である。

この頃、寝る前の暫くの間、昼間のふとした時間に昔のことをいろいろと思い出す。若い頃に「人は死ぬ前に一生の出来事が走馬灯のように頭に浮かぶ」と聞いたことがあるが、老後が長くなった今日ではそうではなく、ゆっくりと思い出を味わうことが出来るようだ。

戦後すぐに産まれて戦争にも合わず、嬉しいことも、悲しいことも人並みに平凡な一生であったと思うが、思い返してみるとニーチェの言葉通りである。

一生とは「自分には言いえない言葉を見つけたかった」のに「ただ黙ってみつめる」ことしか出来なかった長い時間だ。人はめいめいが身をかけて自分だけの物語を生きている。めいめいのただそれだけの物語をとおして「日々の苦しみや喜び」を分け合っている。「暮らし」と「夢」の遂げられない、家族や友との愛の物語こそが私たちの一生である。

それゆえに何度でも生きてみたいと思う。

「これが人生だったのか。ではもう一度」

第２１回　ウェブ川柳天守閣　ご案内

お題　「喜」　　秋田あかり　選
　　「雪」　　佐野正邦　　選
　　「音」　　互　選
　　「雑詠」　　真鍋心平太　選
　　「うどん」（短句）　　互　選
（投句 各 2 句）
投句料３回につき 1000 円
（請求書メールが届いたらお支払い下さい。）

投句開始　２０２５年１月９日（木）から
投句締切　２０２５年１月 １５ 日（水）まで
互選投票　投句締切後下記の期間内に投票して下さい。
　１月 16 日（木）～１月 19 日（日）
披講発表　１月２０日（月）から随時閲覧可能になります。

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は下記 URL から可能です。
https://tensyukaku.com/

投句、互選投票は会員登録が必要です。
会員登録は下記 URL より
https://tensyukaku.com/id_make.php

スマホは下記 QR コードから

投句・閲覧　　会員登録

鉛筆＋パステル画

今月はお休みを頂きます。

二〇二四年一二月二五日発行
ウェブ川柳天守閣会報
（発行責任者　真鍋心平太）
（編集人　真鍋心平太）
（事務所）
〒　520-0054
滋賀県大津市逢坂一丁目8－1
サンルシエル大津 607 号室
川柳天守閣
TEL・fax　077（532）4211
携帯　080（2672）4446